

## 1 級 大阪会場【シーチング組み立て】傾向と対策

### <身頃>

- ・ 前身頃は3面構成のパネルラインでバストダーツはウエストダーツを利用したマニピュレーション処理を行うが、今回のデザインはパッチポケットであるため、確実にポケットに隠れる位置に切り込み線がくる必要がある。マニピュレーションの切り込み位置がポケット口に近く、切り込み線がポケットからみえているのが見られた。マニピュレーションの組み立て方はウエストダーツをピン打ちしポケット口が上下突合せになった状態で裏面から接着芯や接着テープで貼り合わせる。その後、パネルラインを伏せ、ポケットを付ける。そのように処理をしないとポケット口が開いてしまいシルエットが崩れる原因になる。
- ・ ウエストの仕上がり寸法を決めたのち前後身頃切り替えのダーツ量、マニピュレーションを行うウエストダーツ量を決める。それぞれのバランスが悪いときれいにシルエットが表せない。
- ・ 切替え線は、なめらかな曲線がかけないとピン打ちしても思い通りのシルエットにならない。切替えの位置やカーブをデザイン通りに描けるようしっかり練習して試験に臨んでいただきたい。
- ・ 切り替え線のピンうちでは曲線を直線にするようにアイロンでくせとりを行い、ピンを打つことで身頃の滑らかなラインが表現できる。
- ・ ピンの間隔や打つ位置もシルエットに大きく影響する。どこにピンを打つべきか、どのくらいの間隔でピンを打つかよく考えて組み立てる。
- ・ ジャケットに限らず前端や裾、袖口は出来上がりに折り、縫い代が出てこないようにある程度ピンで止める。折られていなければ未完成として不合格になるので注意する。
- ・ 後ろ中心の始末は左後ろ身頃を 8 cm~10 cmほどの幅で作成し両身頃で後ろ中心線をピンうちすることが望ましい。この問題ではセンターベンツが入る為、後ろ中心線をセンターベンツ明き止まりまでピンを打つ。明き止まりから下は持ち出しと見返しの分量を取り、アイロンで折り仕上げ、後ろ中心線を実物同様に仕上げる事が望ましい。

### <ボタン・ポケット>

- ・ ダブルブレストのデザインでは、中心を挟んで同距離に左右ボタンがつく。左右・縦方向のバランスを見てデザイン画通りになるよう付ける。
- ・ 配点の対象ではないが、ボタンホールも記入し実物縫製した時の雰囲気表現できるようにしていただきたい。
- ・ パッチポケットのポケット口は工業用パターンと同寸法の縫い代を取り、しっかりとアイロンで折り、その後ポケット周囲をアイロンで折る。
- ・ パッチポケット周囲の縫い代を多く取るとポケット底のカーブがきれいに見えない。ポケット底のカーブは裏から出来上がり線に沿ってアイロンを当てながら縫い代を軽く折り上げその後、表からアイロンで折る。またはカーブ部分のみにくし縫いして折ることで美しいカーブで仕上げる事ができる。

- ・ パッチポケットをつける場合、身頃にポケット周囲の付け位置を写し、中ヒップまでは身頃とポケットを正確に合わせ、ポケット口ではウェストダーツの浮き分を考慮しながらポケット位置のバランスに気を付けながらピンうちを行う。

#### <衿・衿付け>

- ・ 衿に芯を貼る、貼らないはどちらでもよいが、芯を貼る方が衿外回りの伸びを防ぎ、衿折れ線が滑らかに返る為、芯を貼るほうが望ましい。
- ・ 衿付けは表から縫い代のあたりが出ないように注意し、ピンうちの際ピンのすくい量をできるだけ少なくすることが望ましい。
- ・ 衿外回りの縫い代は裁ち切り、縫い代を折り込む、どちらでも美しくできていればよいとされているが、ピンを打たず、縫い代をしっかりと折り込んで仕上げる方が美しい仕上がりになる。その際、縫い代が重なり、浮きやすくなる衿先のみピンを打つほうが望ましい。

#### <袖・袖付け>

- ・ 袖の振りや袖付けが悪いものや、袖の形状が悪いものが多く見られた。
- ・ 袖を組み立てる際、肘のくせを表現するためには、外袖のくせ取りが必要である。内袖の曲線に沿うようにくせ取りを組み立て前に行くことで美しい袖の形状が得られる。
- ・ 袖口明き見せの始末は本物の明き見を表現する為、後ろ袖切り替え線の明き止まりまでピンをうち明き見せ部分は持ち出しと見返し分量の縫い代を取りアイロンで折ることが望ましい。
- ・ 肩パッドが縫い代端まで届いていないものや前後片方に付いており、安定した状態で袖付けがされず見栄えが悪いものが見られた。肩パッドはアームホールの縫い代に端から端までがしっかりと掛かるように設定する。
- ・ 袖付けのピン打ちは、縫い目線の際を袖付け線に沿って平行に止めるが、ピン打ちやいせ配分の不備のために袖のシルエットを崩してしまったものが多かった。ピン打ちでいせの表現ができない場合は、ぐし縫いをして袖山の形状をある程度整えてから付けるなどの工夫が必要である。
- ・ 袖付けの際、最も重要なことはいせの分量といせの配分を正確に行い、合印を付けることである。しっかり練習し、試験に望んで頂きたい。

**1級ではシーチング組み立ての完成度の高さを求める。パタンナーの業務として、しかるべき位置に正確にいせを入れ、くせとりを行い、本物の商品が想像できるものでなくてはならない。**

**シーチング組み立ての完成度を上げるためにどのようにピンうちをすればよいか研究や工夫をし、試験に望んで頂きたい。**